

グリセリン浣腸について



便が出ない時や、お腹が張って苦しくなってしまった時には、グリセリン浣腸をして便を出しましょう。

グリセリン浣腸は、腸を刺激してお腹の動きをよくする効果があります。その効果により、排便や排ガスを促します。

必要量をシリンジ（注射器）に吸って実施する場合

1. 必要物品の準備をしましょう



図1 必要物品

- 1) 病院で処方されたグリセリン浣腸液 (30ml と 60ml がある)
- 2) 潤滑材 (ワセリン、ベビーオイルなど)
- 3) ティッシュペーパーやおしりふきなど、肛門を押さえられるもの
- 4) シリンジ(注射器)
- 5) ネラトンカテーテル
サイズ () Fr
- 6) おむつ
- 7) おしりふき

2. 浣腸液の準備をしましょう

- 1) チューブの部分をはさみで切ります。



図2 はさみで切る

浣腸液は常温～人肌温で使用してください！

冷たい浣腸液を使用すると、腸管を強く刺激して十分な効果が得られぬまま浣腸液が出てきてしまうだけでなく、血管が収縮することによる急な血圧の上昇や、体温の低下などを生じてしまいます。



- 2) シリンジで指示された量より 2 ml 程度多めに薬剤を吸い上げます。

必要な量は

() ml です。



図3 必要量すいあげる

- 3) シリンジにネラトンカテーテルを付けます。シリンジと接続した後に、カテーテルの中を薬液で満たし、指示の量に合わせてみましょう。



図4 ネラトンカテーテルを付けた場合

3. 浣腸をしましょう

- 1) 食後は泣いたり排便で腹圧がかかったりして嘔吐することがあるので避けましょう。
- 2) 浣腸をする体勢にします。



図5 乳児の場合



図6 幼児の場合

トイレに座った状態で浣腸しようとする
腸内を傷つけやすいのでやめましょう！



- 3) 浣腸を行う人は手をきれいにしましょう。
- 4) カテーテルの先端に潤滑剤を付けます。
- 5) カテーテルを肛門から挿入します。

乳児：3～4 cm

幼児：3～6 cm

上記が挿入する長さの目安です。

- 6) 目安の長さまで挿入したら、薬液をゆっくり入れます。
- 7) カテーテルを抜き、ティッシュ等で3分ほど肛門を押さえます。
- 8) 途中で便がでてしまったらそのままおむつ交換してかまいません。
- 9) 排便後はお尻をきれいにして、頑張ったことを褒めてあげましょう。

浣腸容器のまま実施する場合

1. 必要物品の準備をしましょう

- 1) 病院で処方されたグリセリン浣腸液
- 2) 潤滑材(ワセリン、ベビーオイルなど)
- 3) ティッシュペーパーやおしりふきなど、肛門を押さえられるもの

2. 浣腸液の準備をしましょう

- 1) 指示量を確認します。

常温～人肌温のものを使用してください！

3. 浣腸をしましょう

- 1) 食後は泣いたり排便で腹圧がかかったりして嘔吐することがあるので避けましょう。
- 2) 浣腸する体勢にします。
- 3) 浣腸を行う人は手をきれいに洗います。
- 4) カテーテルの先端に潤滑剤を付けます。
- 5) カテーテルを肛門から挿入します。

幼児：3～6 cm

学童：6～10 cm

上記が挿入する長さの目安です。

- 6) 目安の長さまで挿入したら薬液をゆっくり入れます。口から息を吐く事ができると体の力が少しぬけます
- 7) カテーテルを抜き、ティッシュ等で肛門を3～5分押さえるか、我慢させます。
- 8) 排便後はお尻をきれいにして、頑張ったことを褒めてあげましょう。

共通事項 (片付け・観察)

1. かたづけをしましょう

- 1) 浣腸を行った人は手を拭くのではなく必ず手洗いをしましょう。
- 2) 清潔に扱って残っている薬液の残液は、清潔な密閉容器に保存して使用できます。
- 3) シリンジやネラトンカテーテルを捨てる時は一般の家庭ゴミ(プラスチックごみ)として出してください。



かかりつけの医療機関の指示量や回数で行いましょう！

2. 観察しましょう

- ☆便はどのくらいでしたか？
- ☆便の硬さ・量はどのくらいでしたか？
- ☆匂いはいつもと変わりませんか？
- ☆血液や粘液は混じっていませんでしたか？
- ☆お腹はすっきりしましたか？
- ☆顔色、機嫌は変わりないですか？



【便の形や色の種類】



典型的な母乳栄養のうんちで、軟らかく、粘液、顆粒が混じっています。



泥状便で水分、粘液が多く、回数も多いですが、1回の量はまちまちです。このようなうんちでも、機嫌はよく、体重増加は順調です。



茶色の均等なうんちです。おむつにべったりついて、落ちにくいのが特徴です。



淡黄緑色で、ふわっとした発酵性のうんちで、酸臭があり、回数も多いです。



緑便で、水分と粘液が多く、周囲にこじんで広がっています。



おむつについたまま放置しておくと、空気にふれて緑色に変化することがあります。

血が混じった赤い便や、白・黒色の便がでたときは、医療機関に相談しましょう。

